

## 近隣の自然の変化に目を向ける No. 60

「狂い咲き？気候変動に従っているだけ？」

Off-season flowering or just following climate change? 2021年10月6日

今年は花の咲く時期が2週間位早い、また、狂い咲きの花によく出遭うのが気になっていた。何が原因なのだろう？気候異変が影響しているのだろうか？と思ったりしていた昨日(10/5)、「地球温暖化の原因と予測について1960年代からの研究をされてきた真鍋淑郎博士はじめ3人の地球物理学者がノーベル物理学賞の受賞者に選ばれた、という嬉しいニュースを聞いた。開花時期への影響を考えるグッドタイミング？と思い、受賞理由について調べてみた。

産業革命以前と比較して大気中のCO<sub>2</sub>濃度が、石炭・石油の燃焼により2倍になると「温室効果」により気温が2.36℃上昇するという真鍋氏の数値予測(1967)が世界中で注目され、温暖化対策が始まった。例えば、IPCC(国連気候変動・政府間パネル,1988)が結成され、**京都議定書**(CO<sub>2</sub>排出基準を提案,1997)、**パリ協定**(気温上昇を2℃以内に抑えることを決議,2015)と国際的な対策が進められている。具体的行動としては、**SDGs(持続可能な開発目標)のNo.13**で、各国(政府、企業、組織、個人)が連携して達成すべき目標/課題とされている。



植物の成長と開花を決定する要素は？温度だけでなく、栄養、給水H<sub>2</sub>O、光の強度、酸素O<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>、植物ホルモンなどが考えられ、単純ではない。開花時期は、気温変化、日照時間の変化の影響を受けるが、アルバム最上段は、本来は春に開花するのに秋にも咲いている例だ。

いわゆる“**狂い咲き**”の原因として、植物生理学者は、成長に伴う植物ホルモンの供給が高い気温などのストレスがあると早く花を咲かせて、種子を作ろうとすることにある、と言う。( [https://jspp.org/hiroba/q\\_and\\_a/detail.html?id=1104](https://jspp.org/hiroba/q_and_a/detail.html?id=1104) )。また、秋に**桜が咲く原因**として、アメリカシロヒトリによる食害(夏に葉を食い尽し、葉中の植物ホルモンが失われるため)が報告されている。(下段の**十月桜**は、大島桜と小彼岸桜の交配によって造られた桜で、2度咲きの遺伝子を持っている)。

**中段の朝顔**の開花は、異常ではない。日本では、朝顔市が7月に開かれるので夏の花とされているが、実は10月半ばまで花を見ることができる。特に、西洋朝顔は秋が開花期である。今年は、**銀杏(イチョウ)**の実が9月中に落果、例年よりも半月早い(大型台風にもよるが、早過ぎると感じた)。なお、**銀杏の拾い集め方のヒント**：ゴム手袋を使用(かぶれ/アレルギーを引き起こすイチョールに触れないため)、ビニール袋に集める(処理する時に水と重曹を加え、外から揉んで実を皮から剥がす)、重曹を加えると、臭い成分を中和し無臭にする) <http://sengawacx.com/TreatGinko.jpg>

下段は、どれも2度咲きの花：**オーストラリア原種のブラシ**、9月半ばに早咲きした**金・銀木犀(モクセイ)**が半月後に再び咲き、周囲に甘く、爽やかな香りを放っている。